HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	19世紀末から20世紀初頭に記録された台湾オーストロネシア諸語の「汝ノ名ハ誰カ」
Author(s)	落合, いずみ
Citation	アイヌ・先住民研究, 4, 147-160
Issue Date	2024-03-29
DOI	10.14943/Jais.4.147
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/91284
Type	bulletin (article)
File Information	08_4_Ochiai.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

アイヌ・先住民研究　第４号　2024　p.147–160　ISSN 2436-1763
Aynu teetawanoankur kanpinuye (4) 2024　p.147–160　DOI 10.14943/Jais.4.147

【研究ノート】

19世紀末から20世紀初頭に記録された台湾オーストロネシア諸語の「汝ノ名ハ誰カ」*

落　合　いずみ**

要　旨

19世紀末から20世紀初頭にかけての台湾オーストロネシア諸語の初期の資料において、「あなたの名前は何ですか」を表す表現を検討した。その結果、疑問詞として「誰」を用いた「あなたの名前が『誰』ですか」と表現する言語が14の言語に見られた（「誰」型と呼ぶ）。この他「あなたの名前は何ですか」と疑問詞に「何」を用いる表現（「何」型）はツォウ語、パゼッヘ語に見られたが、パゼッヘ語には「誰」型も見られた。そして、サオ語とブヌン語では「あなたの名前はどのよう（に言われる）」というように疑問詞「どのように」を用いる表現（「どのように」型）も見られたが、これもブヌン語では「誰」型と並行して用いられた。本来、台湾オーストロネシア諸語において全般的に「あなたの名前は何ですか」を表す表現は「誰」型であったが、いくつかの言語において「何」型に移行し、ブヌン語では一部方言を除き19世紀末から20世紀初めまでに「どのように」型に移行したと考えられる。そしてその移行の動機は漢語などの翻訳借用に求められるだろう。「あなたの名前は『誰』ですか」と類似の疑問文として「あなたは誰ですか」という表現があるが、これら2つの疑問文に対する回答は同一になる。

キーワード：台湾オーストロネシア諸語、誰、名前

1. はじめに

台湾オーストロネシア諸語は、台湾先住民族によって台湾本島において話される、または話されていたオーストロネシア系の言語の総称である。Blust（1999）によれば、オーストロネシア祖語は10語群に分岐する。その中の9語群が台湾オーストロネシア諸語である。それら9語群は、1アタヤル語群（アタヤル語、セデック語）、2東台湾語群（バサイ語、カバラン語、アミ語、シラ

* 本稿は言語学フェス2023（2023年1月28日、オンライン開催）における発表を基にしたものである。ご助言をいただいた方々に感謝する。特に野島本泰氏にはブヌン語の例文の分析についてご教示いただいた。本稿にご助言をいただいた2人の査読者にも感謝する。ただし本稿における不備は執筆者の責任である。ちなみに、本稿題目の一部でもある「汝ノ名ハ誰カ」は小川（2006: 147）に見られる、パイワン語の「あなたの名前は何ですか」に対する小川自身による訳出である。またKu（2010: 199）は、パイワン語の「あなたの名前は何ですか」に対してWho is your name?という英訳を用いる。

** 帯広畜産大学

ヤ語)、3 プユマ語、4 パイワン語、5 ルカイ語、6 ツォウ語群（ツォウ語、カナカナブ語、サアロア語)、7 ブヌン語、西平原語群（タオカス語、バブザ語、パポラ語、ホアニャ語、サオ語)、9 北西台湾語群（サイシヤット語、パゼッヘ語）である。1 言語で 1 語群を成す場合以外は、それぞれの語群に含まれる言語名を括弧内に示した。残りの 1 語群はマラヨ・ポリネシア語群であり、台湾本島以外で話される全てのオーストロネシア諸語が含まれる。上記の台湾オーストロネシア諸語の中で、それら言語の記録が見られるようになる 19 世紀末において、消滅の危機に瀕していた言語はバサイ語、シラヤ語、タオカス語。バブザ語、パポラ語、ホアニャ語であり、現代までにほぼ消滅した言語はサオ語、パゼッヘ語である。

筆者はアタヤル語群セデック語のフィールド調査をしている際に、「あなたの名前は何ですか」と言いたい場合は、*ima ka ŋayan =su*（who NOM name =2SG.GEN）つまり「あなたの名前は『誰』ですか」と表現しなければならないことを知り、「何」ではなく「誰」を用いる点を、「何」用いる日本語や英語との違いから不思議に感じていたが[1]、台湾オーストロネシア諸語が記録され始めた 19 世紀末頃の資料を見てみると、「あなたの名前は『誰』ですか」がセデック語以外にも広く台湾オーストロネシア諸語に見られることが分かった。しかし管見の限りこれまで、この表現のデータが整理されて提示された資料はない。

そこで本稿は、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての台湾オーストロネシア諸語の資料における、「あなたの名前は何ですか」の表現を整理した。疑問詞として「誰」を用いた「あなたの名前は『誰』ですか」と表現する言語が圧倒的に多い（2.1 節)。これを「誰」型と呼ぶことにする。この他に、「あなたの名前は何ですか」と、疑問詞に「何」を用いる例もツォウ語とパゼッヘ語に見られる（2.2 節)。これを「何」型と呼ぶ。しかしパゼッヘ語では「誰」型も用いられる。そして、サオ語とブヌン語では「あなたの名前はどのよう（に言われる）か」というように疑問表現として「どのように」を用いる表現（「どのように」型）も用いられる（2.3 節)。しかしブヌン語では「誰」型も用いられる。本来、台湾オーストロネシア諸語全般的に「あなたの名前は何ですか」を表す表現は「誰」型であったが、ツォウ語とパゼッヘ語に言語において、「何」型に移行し、サオ語とブヌン語においては「どのように」型に移行したと考えられる。そしてその移行の動機は漢語などの翻訳借用に求められるだろう。3 節では「あなたの名前は『誰』ですか」という表現について、名前すなわち人物の特定という観点から論じて本稿を締めくくる。

1　「あなたの名前は何ですか」という日本語表現から見ると特殊な用法であるこの疑問詞の「誰」を本稿では二重鍵括弧で示し、当該表現を「あなたの名前は『誰』ですか」と表すことにする。上記セデック語の例文については脚注8と例文（19）も参照されたい。

2. データ[2]

「あなたの名前は何ですか」という表現のデータを収集するのに用いた資料は伊能（1998: 195）である。伊能（1998）は伊能嘉矩が 19 世紀末（1887 年から 1990 年にかけて）に行った踏査において台湾先住民族の集落で収集した語彙を集めたものである。170 余りある項目の中の 1 つに「汝甚麼名 what is your name?」があり[3]、多くの言語からデータが挙げられている。伊能（1998）からは、アタヤル語（1）、セデック語（2）、カバラン語（3）、アミ語（4）、プユマ語（5）、パイワン語（6）、ブヌン語（7, 18）、サイシヤット語（8）、パゼッヘ語（9, 16）、パポラ語（13）、ホアニャ語（14）、ツォウ語（15）のデータが得られた。括弧内は以下の例文番号を示す。これらのデータについては伊能（1998）がどの集落で収集した表現であるかを脚注などに記した。

伊能（1998: 195）では見られない言語のデータを補うために小川（2006: 146–147）も用いた。これは小川尚義が台湾在住の間（19 世紀末から 1920 年後半まで）に自ら台湾を踏査して収集したデータや、先行研究などから収集したデータをまとめて編纂したものである。280 余りの語彙項目が挙げられるが、その中に「名 name」という項目がある。そこに、バサイ語（10）、タオカス語（11）、バブザ語（12）、サオ語（17）の「あなたの名前は何ですか」の例文が挙げられている。

伊能（1998）と小川（2006）を併せて 16 の言語から「あなたの名前は何ですか」データが得られた。ただし、ブヌン語とパゼッヘ語については異なる集落から 2 つの異なる表現が得られたので 2 つのデータを、集落名とともに示した。以下（1）から（18）では「あなたの名前は何ですか」の表現をできるだけ原典の表記のままに示す（但し語の分節について変更を加えた場合もある）。注釈については本稿筆者が加えた。原典において「汝」と「名」に相当する語には注釈が載っている場合もあり、それも参考にどの語がどの意味に相当するか特定した。ただし伊能（1998: 195）では「誰」に当たる語に「何」と注釈が付いているため、この点は修正した。また、伊能（1998）と小川（2006）から例文を挙げたそれぞれの言語について、現代における「あなたの名前は何ですか」の表現が文献などから得られる場合（バサイ語（10）、タオカス語（11）、バブザ語（12）、パポラ語（13）、ホアニャ語（14）を除く）は、現代の表現を脚注に示した[4]。

以下に挙げる多くの例において「あなたの名前は何ですか」を表す表現は、「名前」「誰」「二人

2　略号一覧：GEN 属格、LNK 連結辞、NOM 主格、PART助詞、SG単数 、UV非動作主態、UVP非動作主態・対象主語

3　中国語表記の方は閩南語の「あなたの名前は何ですか」を示していると考えられる。

4　ただし、本稿で引用した19世紀末から20世紀初頭の表記方法について、それぞれの言語における現代の標準的表記法に合わせて書き直すということは行っていない。
　また、現代の例文においては二人称単数代名詞について筆者のわかる範囲で格の区別を示している。加えて、伊能（1998）と小川（2006）に挙げられた諸言語の例文について、その言語の方言区分が分かる場合は、できるだけ同一方言における現代の表現を原住民族語言發展基金會（2020）から探した。

称単数代名詞」の三つの構成要素から成る[5]。二人称単数代名詞を表す語については、それが主格であるか属格であるか、または独立して用いられる形式であるか、独立して用いられない形式（接語）であるかについて、それぞれの言語における現代の文法と照らして判別するということは行っていない[6]。二人称単数代名詞を表す形式が出現するかどうかのみ扱う。

2.1「誰」型

以下（1）から（14）に挙げた 14 の台湾オーストロネシア諸語語からの例は 19 世紀末から 20 世紀初頭における「あなたの名前は何ですか」を表す表現である。これらにおいて疑問詞として「誰」が用いられているため「あなたの名前は『誰』ですか」と表現していることになる。また（11）から（14）のタオカス語、バブザ語、パポラ語、ホアニャ語の例文においては、「あなた」に相当する語が見られないため、「名前は『誰』ですか」と表現していることになる。

(1) アタヤル語[7]

ima	*raru*	*iso*
who	name	2SG

(2) セデック語[8]

ima	*ngadan*	*iso*
who	name	2SG

5　それぞれの語について、多くの言語においてオーストロネシア祖語の反映形を持つ。Blust and Trussel（2010）によるとオーストロネシア祖語の「誰」は*ima、「名前」は*ŋajan、二人称単数代名詞は*iSuである。本稿で挙げた例文において「誰」を表す語がオーストロネシア祖語*imaの反映形ではないのは、バサイ語、カバラン語、タオカス語、パポラ語、ホアニャ語、サイシヤット語である。「名前」を表す語がオーストロネシア祖語*ŋajanの反映形ではないのは、アタヤル語、ツォウ語、タオカス語、ホアニャ語、サイシヤット語である。

6　このような考察には以下のような困難が伴うためである。先行研究に挙げられた「あなたの名前は何ですか」を表す表現が、その当時の自然な発話を記録したものかどうか判断できない。浅井（1954: 15）では、台湾オーストロネシア諸語の話者が日本人の調査者に対して、内輪で用いる表現ではなく、部外者に対して用いる表現を提示したとあるからである。伊能（1998）や小川（2006）に挙げられ、本稿で用いた例文は部外者用の言い方に歪められた表現かもしれない。または、先行研究の時代から現代にいたる間に、歴史的変化を経た可能性も考えられる。例えば、それに相当する表現は脚注7と8にも示したように現代アタヤル語において*ima lalu su*（原住民族語言研究發展基金會 2020）、現代セデック語において*ima ngayan su*という（例文は筆者の調査による）。二人称単数代名詞は属格を表す接語である。ところが、伊能（1998）では、アタヤル語、セデック語ともに、二人称単数代名詞は*isu*（伊能（1998）の表記ではiso）という独立形の代名詞形式で現れる。伊能（1998）に挙げられたのが、歪められた表現なのか、代名詞が接語形代名詞に移行する前の古い表現なのか判断が付かない。

7　伊能（1998: 195）におけるMarai, Sinaji:, Pi:rai, Ha:rao, Watoan, Sumahan, Manapan, Maivara集落の表現（どれも同一）を挙げた。原住民族語言研究發展基金會（2020）によると、現代アタヤル語（スコレック方言）では*ima lalu su*（who name 2SG.GEN）という（ただし、各語の語末に声門閉鎖音を表す記号としてアポストロフィが付いているが、これは母音終わりの語に現れる音声的現れと見なし、本稿の表記では除いた）。

8　伊能（1998: 195）におけるVainnohu集落とParan集落の表現（どちらも同じ）を挙げた。伊能（1998: 195）では「名前」に相当する語が*ngadani*と表記されるが、現代では*ŋayan*であるように語尾の*i*は見られない。これは後続する二人称単数代名詞*iso*（現代の表記では*isu*）の語頭の*i*をその前の語の語尾に付けたための表記と思われる。また、本稿筆者の調査によると現代セデック語（パラン方言）では、*ima (ka) ŋayan su*（who (NOM) name 2SG.GEN）である（例文（19）に再掲）。主格標識*ka*の出現は多くの場合において任意である。

(3) カバラン語 [9]

tyana	*nangan*	*aiso*
who	name	2SG

(4) アミ語 [10]

tsima	*ngangan*	*kiso*
who	name	2SG

(5) プユマ語 [11]

imanai	*no*	*ngaran*
who	NOM	name

(6) パイワン語 [12]

tema	*so*	*ngadan*
who	2SG	name

(7) ブヌン語 Sivukun 集落 [13]

sima	*iso*	*ngan*
who	2SG	name

9　伊能（1998: 195）におけるKariyen集落の表現を挙げた。原住民族語言研究發展基金會（2020）によると、現代カバラン語では*tiana nangan su*（who name 2SG.GEN）である。

10　伊能（1998: 195）におけるVarangao集落の表現を挙げた。この表現において二人称単数主格に当たるのが*kiso*であると査読者の 1 人から指摘を受けた。原住民族語言研究發展基金會（2020）によると、現代アミ語（馬蘭方言）では*cima ko ngangan no miso*（who NOM name GEN 2SG.GEN）であり、主格標識にあたる*ko*が見られる。今西一太氏によると、現代アミ語の観点からすると上記のVarangao集落の表現のように主格標識の現れない構文は不自然に聞こえるそうである。ただし、伊能（1998: 195）には他のアミ語の集落、TaparonとTsikatsoanからも例文が挙げられており（これら集落名は伊能（1998）の表記に拠るが、現代ではそれぞれTavalongとCikasoanと表記すると査読者の 1 人から指摘を受けた）、それぞれ*tsima ku ngangan umiso*と*tsima ku ngangan kiso*となっており、主格標識に当たる*ku*という語が見られる。

11　伊能（1998: 195）におけるKinavurao集落の表現を挙げた。原住民族語言研究發展基金會（2020）によると、現代プユマ語（南王方言）では*imanay nu ngalad*（who 2SG.GEN name）である。

12　伊能（1998: 195）におけるTerosok集落の表現を挙げた。原住民族語言研究發展基金會（2020）によると、現代パイワン語（東部方言）では*tima su ngadan*（who 2SG.GEN name）である。

13　伊能（1998）におけるSivukun集落の方言変種に相当するブヌン語郡社方言は、原住民族語言研究發展基金會（2020）によると、*tu-ku-n isu ngan*（say-how-UVP 2SG.GEN name）である。これは、2.3節に述べる表現と一致する。この方言では「あなたの名前は『誰』ですか」から「あなたはどのように言われますか」に変化したと考えられる。

(8) サイシヤット語[14]

heya	*syoo*	*raruru*
who	2SG	name

(9) パゼッヘ語 Tarumyan 集落[15]

ima	*ranga*	*pai*	*isso*
who	name	PART	2SG

(10) バサイ語

saita	*na^{n}gan*	*su*
who	name	2SG

(11) タオカス語[16]

tana	*yanan*
who	name

(12) バブザ語

hanan	*toma*
name	who

(13) パポラ語[17]

niyanoan	*nnan*
who	name

14　伊能（1998: 195）におけるTaruumyan集落の表現を挙げた。原住民族語言研究發展基金會（2020）によると、現代サイシヤット語では*So'o Sin hiya'-en raro:o*（2SG call who-UVP name）または*niSo raro:o Sin-hiya'-en*（2SG. GEN Sin-who-UVP）である（接頭辞*Sin-*の意味機能は不明）。原住民族語言研究發展基金會（2020）によると*Sin*は「呼ぶ」を意味するため、「あなたの名前は『誰』と呼ばれますか」と表現していることになる。

15　伊能（1998: 195）ではパゼッヘ語の例文（9）と（16）の後ろから二つ目までの語は*pa-isyo*、*paisso*と表記されているが、Li and Tsuchida（2001: 223）では*pai*が助詞として挙げられるので、*pai* と*isso*、*pai*と*isyo*に分けた。Li and Tsuchida（2001）は主に小川尚義が収集したパゼッヘ語の資料を編纂したものであり、これもまた19世紀末から20世紀初頭のパゼッヘ語の資料と見なされる。また、Li and Tsuchida（2001: 165）には（9）と（16）に相当する表現も載せられている。（9）に相当するのが*ima langat pai siw?*である。（16）に相当するのが*isiw ka asay(a) langat?*である。ただし後者の対応では語順に違いが見られる。（16）では疑問詞*assaiya*「何」が文頭に来ているのに対し、Li and Tsuchida（2001）の対応例では二人称代名詞*isiw*が文頭に来ている。

16　タオカス語（11）、バブザ語（12）、パポラ語（13）、ホアニャ語（14）における注釈についてはTsuchida（1982: 67, 155）も参照した。

17　伊能（1998: 195）におけるHajyovan集落の表現を挙げた。なお、伊能（1998: 195）ではniyano-anというように分節しているが、それぞれの形態素に意味を付しているわけではないので本稿ではハイフンを除いた。

(14) ホアニャ語 [18]

katyam	*tsi*	*tsinga*[19]
who	?	name

伊能（1998）に挙げられた 16 言語の中、ツォウ語とサオ語を除き、以上（1）から（14）に見られる 14 の言語において「あなたの名前は何ですか」の表現における疑問詞は「何」ではなく「誰」が用いられている。つまり台湾オーストロネシア諸語において「あなたの名前は何ですか」を表す表現として、「あなたの名前は『誰』ですか」が圧倒的に多数を占める。このことから、オーストロネシア祖語の段階に遡っても「あなたの名前は『誰』ですか」を用いていたであろうと推察される。ちなみに、マラヨ・ポリネシア語群から例を挙げると、ヤミ語では *sino o ngaran mo*（who NOM name 2SG.GEN）であるため「誰」型である [20]。

2.2「何」型

以下（15）と（16）は、19 世紀末から 20 世紀初頭のツォウ語とパゼッヘ語における「あなたの名前は何ですか」を表す表現を示すが、これら例文では疑問詞として「何」が用いられている。これらの言語では文字通り「あなたの名前は何ですか」と表現している。

(15) ツォウ語 [21]

su:	*tsuma*	*onku*
2SG	what	name

(16) パゼッヘ語 Rihi:tam 集落

assaiya	*ranga*	*pai*	*isyo*
what	name	PART	2SG

18 伊能（1998: 195）におけるSavava集落の表現を挙げた。

19 不明の要素tsiは名前を表す*tsinga*の語頭を重複したもの（*tsi-tsiga*）かもしれない。または、主格を表す標識であるかもしれない。

20 ヤミ語の例は原住民族語言研究發展基金會（2020）を参照した。

21 伊能（1998: 195）におけるHo:集落の表現を挙げた。原住民族語言研究發展基金會（2020）によると、現代ツォウ語では*cumas'a na ongko su*（what NOM name 2SG.GEN）である。原住民族語言研究發展基金會（2020）によると「何」は*cuma*である。上記表現における「何」を表す語*cumas'a*の語尾に見られる*s'a*が何を表すかは不明である。

また、ツォウ語族に属する二つの言語、カナカナブ語とサアロア語について原住民族語言研究發展基金會（2020）から「あなたの名前は何ですか」に対応する例文が得られた。それぞれ、*neen nganai musu?*（who/what name 2SG.GEN）と、*ngasa ngahla u?*（who/what name 2SG.GEN）である。これらの表現における疑問詞*neen*と*ngasa*は「誰」と「何」の両方の意味を持つため、どちらの意味で用いられているか判定できない。

ツォウ語では疑問詞「何」が用いられる。漢語方言など「あなたの名前は何ですか」の表現において疑問詞「何」を用いる他言語との接触により、「何」を用いるように変化したのだろうか。

ツォウ語のように「何」を用いる例がパゼッヘ語の Rihi:tam 集落にも見られるが（16）、同じパゼッヘ語でも Tarumyan 集落では「誰」で現れる（9）。これも「誰」から「何」への変化をほのめかしている。

しかも、同様の変化が現代のセデック語にも見て取れる。筆者の調査によると現代では *ima ŋayan su*（who name 2SG.GEN）であるが、実際には *maanu ŋayan su*（what name 2SG.GEN）という表現も聞かれるのである。「あなたの名前は何ですか」という表現において、疑問詞「何」を用いる中国語などの翻訳借用と考えられる[22]。

ちなみに、マラヨ･ポリネシア語群から例を挙げると、タガログ語では *anó ang pangalan mo*（what NOM name 2SG.GEN）であり「何」型である[23]。

以上、台湾オーストロネシア諸語のいくつかにおいて、「あなたの名前は『誰』ですか」が「あなたの名前は「何」ですか」に 19 世紀末の時点でもう移行していた、または言語によっては今、同じような移行が進行中であることを述べた。

2.3「どのように」型

以下（17）と（18）は 19 世紀末のサオ語とブヌン語 Katavan 方言における「あなたの名前は何ですか」を表す。これら例文では「どのように」という疑問表現が現れるため、「あなたの名前はどのよう（に言われます）か」と表現していることになる。

(17) サオ語[24]

kiya-n　*θanal*

how-UV name

(18) ブヌン語 Katavan 集落[25]

too-ka-un	*nga′an*	*syo′o*
say-how-UVP	name	2SG

22　例えば「你叫什麼名字」などの表現が相当する。

23　タガログ語の例はEnglish（1977: 646）を参照した。

24　原住民族語言研究發展基金會（2020）によると、現代サオ語では*kuza-n mihu a lhanaz*（how-UV 2SG.GEN LNK name）である。

25　伊能（1998）におけるKatavan集落と同じブヌン語方言に属するTakituduh方言は、原住民族語言研究發展基金會（2020）によると、*tuqo-un ca ngan ni su*（call-UVP NOM name OBL 2SG）である（斜格に相当する*ni*は本来*i*であるが、直前の語*ngan*の語末子音の影響を受けて、その子音が母音*i*の前に複製されたものと考えられる）。一語目の*tuqo-un*における*q*の直後の母音は本来*u*であるが*o*に変化している。これは子音*q*が母音の調音位置を押し下げたためと考えられる。本文に述べるようにTakituduh方言では「誰」型も見られる。

小川（2006: 146）によるとサオ語の第一語は *kiyan* と表記されているが、本稿ではこれを現代サオ語の *kuzan* に相当する語であると判断した。Blust（2003: 504–505）によるとこの語 *kuza-n* は、*kuza*「どのように」から、接尾辞 *-n* を付加することで派生された語である [26]。そして *kuza* はオーストロネシア祖語の *kuja「どのように」に遡るとする。Blust（2003）では、*kuza-n* を「どのように」ではなく「何」と解釈しているが、挙げられている例文は「あの人の名前は何ですか」に相当する *kuza-n cicu a lhanaz*（how-UV 3SG.GEN LNK name）のみである。原住民族語言研究發展基金會（2020）によると、サオ語において「何」を表す語は *numa* として挙げられる。そのため本稿では、名前を尋ねる疑問文においてのみ見られる疑問詞の *kuza-n* は、語根 *kuza* の原義である「どのように」の意味を保っていると考えた。

次に、ブヌン語 Katavan 方言においても、疑問詞「誰」も「何」も用いない表現が挙げられている。ここでは「あなたの名前はどう言われるか」という表現を採っている。第一語 too-ka-un は現代ブヌン語では、*tu-qu-un* である。第一形態素の *tu-* は Nojima（1996）によると「言葉で～する」という意味をもった語彙的接頭辞であり [27]、Nihira（1988: 398）では “say, tell, utter (human voice)” との注釈がつけられているため、ここでは「言う」を表すと捉える。第二形態素の *qu* は、疑問詞 *qua*「どのように（する）」の縮約形である [28]。第三形態素の *-un* は接尾辞であり、非動作主態（対象主語）を表す。全体として「どのように言われる」を表している。

しかし一方で、原住民族語言研究發展基金會（2020）では、Katavan 集落と同じブヌン語方言に属する Takituduh 方言の表現は *cima ca ngaan suu*（who NOM name 2SG.GEN）で、「誰」を用いた表現である。また、（7）に挙げたブヌン語 Sivukun 方言でも「誰」を用いた表現であった [29]。そのため、Katavan 方言においても古くは「あなたの名前は『誰』ですか」と表現していたと考えられる。それが「あなたの名前はどう言われるか」という表現に移行したことになる。2.2 節において「あなたの名前は何ですか」を表す表現における疑問詞「誰」から「何」に変化したのは漢語からの翻訳借用の影響ではないかと述べたが、「誰」から「どう言われる」に変化したのも、例えば「怎麼稱呼」などに相当する漢語からの翻訳借用の影響が考えられる。

26 新居田（2018: 190–191）によるとサオ語には非動作主態を表す接尾辞として *-in*（非動作主態対象主語）と *-an*（非動作主態場所主語）がある。上記 *kuza-n* における接尾辞 *-n* はこれらのどちらかに由来するものと考えられるが、母音が脱落したためどちらの接尾辞であったか判断できない。

27 Nojima（1996: 22）によると、この語彙的接頭辞は *tupa*「言う」という動詞の前半部分に由来するとする。

28 直後に続くのが母音始まりの接尾辞である *-un* であるため、母音が…*ua-u*…と3つ連続するのを避けるために、語末母音 *a* が脱落したと考えられる。

29 この集落名は伊能（1998）に拠るが、現代では Isbukun と表記すると査読者の 1 人から指摘を受けた。

3. 名前すなわち人物の特定

「あなたの名前は何ですか」と聞く場合、多くの台湾オーストロネシア諸語では「あなたの名前は『誰』ですか」と表現する。そして答えとして氏名が要求される。そのため、「あなたの名前は『誰』ですか」と共に考慮されるべき表現として「あなたは誰ですか」がある。以下（19）に「あなたの名前は『誰』ですか」とその返答、（20）に「あなたは誰ですか」とその返答の例をセデック語パラン方言から挙げる。これら例文は筆者の調査に基づく。

(19) セデック語[30]

a.　*ima*　*ka*　*ŋayan*　*=su?*
who　NOM　name　=2SG.GEN
「あなたの名前『誰』ですか。」

b.　*Iyuŋ Pawan*　*ka*　*ŋayan*　*=mu.*
Iyuŋ Pawan　NOM　name　=1SG.GEN
「私の名前は Iyuŋ Pawan です。」

返答（19b）では、質問の受け手の氏名である *Iyung Pawan* が述べられている。Iyung はセデック族の男性名である。*Pawan* もセデック族の男性名である。セデック語における人名の呼称は父子連名制であり、自分の個人名と親の個人名から構成される（Ochiai 2021）。この *Iyung Pawan* という人物は男性であり個人名は *Iyung* で、父親が *Pawan* という名であることが示されている。以下（20）に挙げるのは「あなたは誰ですか」とその返答である。

(20) セデック語

a.　*ima*　*=su*　*ka*　*isu?*
who　=2SG.NOM　NOM　2SG
「あなたは誰ですか。」

b.　*Iyuŋ*　*=ku*　*Pawan*　*ka*　*yaku.*
Iyung　=1SG.NOM　Pawan　NOM　1SG
「私は Iyuŋ Pawan です。」

30　これらの例文において接語を「=」とともに示している。セデック語において接語代名詞主格（上記の=*ku*や=*su*など）は節の第二語目に現れる。二人称単数の=*su*については主格と属格が同形である（落合2016: 37–39）。

返答（20b）においても、（19 b）と同様に、*Iyung Pawan* という氏名が述べられている。「あなたの名前は『誰』ですか」（19a）と「あなたは誰ですか」（20a）はともに名前を要求する疑問表現であることがわかる。

ちなみに、セデック語における名前の型は台湾オーストロネシア諸語全般において見られる名前の型に即している。移川（1939）によると、台湾オーストロネシア諸語における名前は 2 つの部分からなり、前の要素は個人名、後ろの要素は個人を限定する名称であるとのことである。後ろの要素として、親の個人名、支族名、家名の 3 種類が見られる。それぞれの呼称を父子連名制、氏族制、家名制と呼ぶことにする。移川（1939）では、父子連名制に属するのはアタヤル語、セデック語、サイシヤット語、アミ語、ツォウ語の一部であり、支族制に属するのはツォウ語、ブヌン語である。サイシヤット語とアミ語は、父子連名制の他に氏族制も有する。家名制はパイワン語、ルカイ語、プユマ語である。これらを表 1 にまとめた。

表 1 台湾オーストロネシア諸語における人名の呼称の種類

父子連名制（個人名・親の個人名）[31]	氏族制（個人名・氏族名）	家名制（個人名・家名）
アタヤル語	ツォウ語	パイワン語
セデック語 [32]	ブヌン語	ルカイ語
サイシヤット語	サイシヤット語	プユマ語
アミ語	アミ語	
ツォウ語		

いずれの人名呼称の種類においても、後部の要素がその人物を特定する要素になっている。つまり名前を名乗れば、どの集落の何者であるか（親が誰であるか、どの氏族の者であるか、どの家の者であるか）が分かる仕組みである。名前がすなわちその人物の素性の特定となるという言語的・文化的背景が土台としてあり、そのことが「あなたの名前は『誰』ですか」という表現が生じるきっかけとなったのではないか [33]。

4. おわりに

19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての資料、伊能（1998）と小川（2006）から台湾オーストロネシア諸語における「あなたの名前は何ですか」に相当する表現を抜き出し、データの得られた 16

31 移川（1931: 41–42, 1939: 324）はホアニャ語、パゼッヘ語など台湾西部において消滅の危機に瀕しつつあった言語も父子連名制を持っていただろうと示唆している。

32 セデック語は移川（1939）には述べられていないが、Ochiai（2021）においてセデック語の父子連名制が述べられていることから表に加えた。

33 なおここではオーストロネシア諸語に限定して考察を述べたが、その他の言語においても類似の表現が見られる可能性はある。そのような考察を俟ちたい。

の言語の中で 14 言語が「あなたの名前は「誰」ですか」と表現することを述べ、この表現がオーストロネシア祖語に遡ることを示唆した。パゼッヘ語において「誰」型と「何」型の両方が異なる集落において見られること、セデック語では現代において「誰」型と「何」型の両方の使用が見られることを述べ、「誰」から「何」への変化の方向性も示唆した[34]。ブヌン語では一部方言を除き、「誰」型から「どのように」型へ変化したことも述べた。「何」型と「どのように」型への移行は漢語表現の翻訳借用が背景にあると考えられる。

参考文献

浅井恵倫（1954）「台湾言語学はどこまで進んだか」『民族学研究』18: 12–19.

Blust, Robert (1999) Subgrouping, Circularity and Extinction: Some Issues in Austronesian Comparative Linguistics. In: Elizabeth Zeitoun and Paul Jen-kuei Li (eds.), *Selected Papers from the Eighth International Conference on Austronesian Linguistics*, pp.31–94. Taipei: Institute of Linguistics (Preparatory Office), Academia Sinica.

Blust, Robert (2003) *Thao dictionary*. Taipei : Institute of Linguistics (Preparatory Office), Academia Sinica.

Blust, Robert and Stephen Trussel (2010) *Austronesian Comparative Dictionary, Web Edition*. http://www.trussel2.com/ACD/. [accessed January 2023]

English, Leo J. (1977) *English-Tagalog dictionary*. Mandaluyong: National Book Store.

原住民族語言研究發展基金會（2020）『族語E樂園』https://web.klokah.tw/［2023年1月アクセス］.

伊能嘉矩（1998）『伊能嘉矩：蕃語調査ノート』［森口恒一（編）］東京: 日本順益台湾原住民研究会.

Ku, Kun Hui (2010) “Who is your name?” Naming Paiwan identities in contemporary Taiwan. In: Yangwen Zheng and Charles J-H Macdonald (eds.), *Personal names in Asia: History, culture and identity*, pp. 199–221. Singapore: NUS Press.

Li, Paul Jen-kuei and Shigeru Tsuchida (2001) *Pazih dictionary*. Taipei: Institute of Linguistics, Academia Sinica.

Nihira, Yoshiro (1988) *A Bunun vocabulary: A language of Formosa*. Tokyo: Ado-in Kabushiki Kaisha.

新居田純野（2018）『台灣原住民瀕危語言邵語』台北: 大新書局.

Nojima, Motoyasu. 1996. Lexical prefixes of Bunun verbs. *Journal of the Linguistic Society of Japan* 110: 1–27.

落合いずみ（2016）「セデック語パラン方言の文法記述と非意志性接頭辞の比較言語学的研究」京都大学博士論文.

Ochiai, Izumi (2021) A fossilized personal article in Atayal: With a reconstruction of the Proto-Atayalic patronymic system. Journal of Ainu and Indigenous Studies 1: 99–120.

小川尚義（2006）『臺灣蕃語蒐録』［李壬葵・豊島正之（編）］東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

34　著者は、自らが「誰先生？」という表現を用いる場面があることに気づいた。その意図は「あなた（先生という職業をしている）の名前は何ですか」である。この「誰先生？」は疑問詞として「誰」を用いる点で「汝の名は誰か」に類した表現といえるだろう。また類例として、淺尾仁彦氏は「いつ時代？」という表現を用いることがあるという。これは「その時代は何と呼ばれる時代ですか」または「それは何（の）時代ですか」を意図したものだという（答えとしては「明治時代」などが挙げられるだろう）。この「いつ時代？」表現は時間にかかわる疑問文である。疑問詞として「何」が期待される場面で、時間に関わる疑問詞「いつ」が用いられている。期待される疑問詞は「何」だが、それ以外の疑問詞が用いられる点で「あなたの名前は『誰』ですか」に類似している。

Tsuchida, Shigeru (1982) A comparative vocabulary of Austronesian languages of sinicized ethnic groups in Taiwan, part I. West central Taiwan. *Memoirs of the Faculty of Letters, University of Tokyo* 7:1–166. Tokyo: Faculty of Letters, University of Tokyo.

移川子之蔵（1931）「承管埔地合同約字を通じて観たる埔里の熟蕃聚落」『南方土俗』1（3）: 37–44.

移川子之蔵（1939）「姓名としての高砂族個人・家族・氏族名」『台湾総督府博物館創立三十周年記念論文集』台北: 台湾博物館協会.

（2023 年 6 月 26 日受付、2023 年 12 月 19 日審査終了）

“Who is your name” in Formosan languages

Izumi Ochiai*

ABSTRACT

This paper investigated the expression “What is your name?” in the early documents related to Formosan languages (Austronesian) recorded in the late 19th century to the early 20th century. As a result, fourteen languages (Atayal, Seediq, Basay, Kavalan, Amis, Puyuma, Paiwan, Bunun, Saisiyat, Pazih, Taokas, Babuza, Papora, and Hoanya) were observed to use an interrogative meaning “who” (“who” type). Thus, the expression means “Who is your name?” Two languages, Tsou and Pazih, uses “what” (“what” type); however, Pazih also has a “who” type. Two other languages, Thao and Bunun, use “how” (“how” type), with the expression “How is your name (called)?” However, Bunun also has “who” type. These observations indicate that the original expression in Formosan languages was the “who” type, and this shifted to the “what” type or “how” type in a few languages. These shifts may have been triggered by a calque of the expressions in Chinese dialects, which use interrogatives “what” or “how” when asking a person’s name. The original expression “Who is your name?” invites the same answer as the question “Who are you?” The idea behind this is that a name represents identity (“who”). The expression “Who is your name” is likely based on this cultural and linguistic background shared by the Formosan people.

Keywords: Formosan languages, who, name

* Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine